

全員死の方向ではなくて、生きるという方向に回しておきながら、その責任を問うて自分も生存という道を選ぶんですね。いざそうなったときに、この群れから離れた瞬間ですね、選択の連続になるんです。いろんなことを状況分析して、判断して決定、これの連続がグーッと押し寄せてきます。編隊として飛んでいる限りは自分で物事を決める必要はないんです。鳥が群れをなして飛んでいるようなもの。群れをなして飛ぶ鳥が、自分の飛ぶ方向を自分で決めているわけじゃないんです。この、群れに流されて自分でやっている、楽といえば楽なんです。しかし、その群れから一匹だけ離れちゃったらこれは大変です。生きるためにはものすごく大変なことになります。一瞬たりとも気は抜けない状況がどつとやってきます。まあ、僕の『鋼鉄の叫び』はフィクションですから、特攻隊の中に一人だけそういうのがいたという設定で、彼はとてつもないサバイバルに突入していくことになります。これが僕の『鋼鉄の叫び』というメインのストーリーになります。



この小説で言わなくちゃいけないのは、これからの時代というのは、やっぱり日本人、もはや集団主義ではなくて個人で物事を決め、選択肢を自分で選ぶことをやらなくてはいけないだろう。選択肢を自分で選ぶときに何が大事かって言ったら、これが勉強になってくると思うんです。例えば僕、ラグビーを一度もやったことない。僕がもしラグビーのフィールドの真ん中にいたとします。ラグビーのことをまったく知らない。そこへボールがボーンって飛んできて、僕がとったとします。僕がこのボールをどこに投げているのか、まったくわからない。どこに投げているのか、投げる方向は360度全部ありますよ。でもどの選択肢を取っているのかさっぱりわからないから、投げられないまま終わってしまうと思う。いい投げたとしてもとんでもないところに投げちゃうと思う。ところがこの自分に与えられたボールをものすごく有効にいかそうと思ったら、ラグビーっていうスポーツはどのようなものを深く理解して、なおかつこの訓練をつまなくちゃいけないですね。ラグビーというものを習熟しなくちゃいけない。習熟したらボールがほんとと来たときに、たぶん選択肢としては二つくらいしかわからないでしょう。投げる方法としてはこっちかこっちだ、あとは運だよ。この全方位のチョイスがあるんだけども、それを有効な2本に絞り込むというのが、それを習熟するということだと思うんですね。僕はなるべく子どもたちに向かって、人生というものに習熟していけということを言ってる。

実力をつける。実力をつけるということはどういうことかといったら、何も知らないままだと選択肢が多すぎる。360度にある。物事を知ることによって、僕はこれを「世界の仕組みを知る」と言ってるんですけど、世界の仕組みを知るとどうなるかという、今やるべきことを即座に判断できて、選択肢がせいぜい二つくらいにしゅつと収束していくんですね。後は運です。どちらを掴むかによって、その先どうなるかというのは意外とわからないところがある。ものすごく運に作用されるところがある。僕はこの人生を掴んだつもりでも、明日ですね、交通事故にあわないとも限らない。それはまったく未来は予測が付きません。しかし、どのような予測

がつかない未来であろうとも、絶対やってはいけない選択肢はあるはずなんです。そうではなくて有効な二つくらいの選択肢を、ぱたっと見極める力を養う。これが僕は学力の本質だと思っています。今、子育てをやった経験から、教育問題についてうものに非常に興味を持っている次第です。皆さん今日はありがとうございました。

※本文中の「みんなで子育てシンポジウム」熱海会場、富士会場については、東日本大震災の影響を考慮し開催を中止しました。

〈第2部〉14:10～ パネルディスカッション

【コーディネーター】 静岡県立大学短期大学部 教授: 漁田俊子氏

【パネリスト】しまだ次世代育成支援ネットワーク代表:染谷絹代氏/NPO法人ポレポレ事務局長:神谷尚世氏/磐田市子育て支援課:鈴木壮一郎氏/作家:鈴木光司氏

司会： これより第1部のトークショーに続き、第2部のパネルディスカッションに移らせていただきます。本日のパネルディスカッションはさまざまな形で子育てに関わっている方々をお呼びしております。「シニア世代による子育て支援」をテーマに、パネリストの方々のさまざまな経験談をおうかがいしながら、皆さんにシニア世代による子育て支援のヒントなど、何か一つでも新しいことをお持ち帰りいただければと思っています。早速ではございますが、パネルディスカッションにご参加いただくみなさまをお呼びいたします。

まずはじめに、本日のパネルディスカッションのコーディネーターを務めていただきます、静岡県立大学短期大学部漁田俊子教授をお呼びしたいと思います。漁田教授は現在、静岡県立大学短期大学部で教鞭をとられております。認知心理学、認知科学をご専門とされ、乳幼児や児童の心理なども研究していらっしゃいます。また、研究のために35年間、幼稚園・保育園を対象としたフィールドワークを続けていらっしゃいます。漁田教授、本日はよろしくお願いいたします。



静岡県立大学短期大学部 教授 漁田俊子氏

続きまして、パネリストの皆さんをお呼びいたします。まず最初のパネリストです。「しまだ次世代育成支援ネットワーク」代表の染谷絹代さんです。染谷さんをはじめ、「しまだ次世代育成支援ネットワーク」の皆様は子どもの成長と子育てを地域全体で支援し、子どもが大切にされる社会の実現を目指して、子育て家庭への支援、多世代交流、遊びの啓発事業、そのほか次世代育成支援に関わるさまざまな事業を島田市を中心に展開されています。

そしてお二人目は、湖西市のNPO法人「ボレボレ」で事務局長を務めて
 いらっしゃいます神谷尚世さんです。神谷さんはじめNPO法人「ボレボレ」
 の皆様は、妊婦、乳幼児、小学生とその親、家族に対して遊びや情報などを
 提供することによって、子どもの育つ力を助け、親の育てる力を引き出し、
 子どもの発達、親の育児力の形成を支援する事業を行い、子どもたち、親
 たちが暮らす地域の福祉向上に貢献していられたいです。

続きましてパネリスト3人目は、磐田市子育て支援課から鈴木壮一郎さんにお越しいただきました。鈴木さんは磐田市の子育て支援課のご担当者として子育て支援、児童福祉などに関わるさまざまな取り組みを実践されています。

そして最後4人目のパネリストは、先程第1部で楽しいお話をお聞かせくださいました鈴木光司さんです。

以上5人の皆さんでパネルディスカッションを進めたいと思います。みなさんどうぞよろしくお願いいたします。さて、ここから先はコーディネーターの漁田先生に進行を預けたいと思います。

漁田： はい、あらためまして本日コーディネーターを務めさせていただきます。漁田と申します。よろしくお願いたします。壇上から、ちょっとこうやって見せていただいて恐縮なんですけれども、ここにいらっしゃる皆様で、いま子育て中のお父様、お母様に当たられる方、あるいは孫育て中のおじいちゃん、おばあちゃんに当たられる方、いらっしゃるかもしれません。お手を上げていただけますでしょうか。ありがとうございます。残りの方は、私が想像するに、特別子育てには何の関心も関係もないけれども、天気がいいので外へ出て、はっと気がついたらここに座っていたという皆様、そういう方もおられるのではないかなと。あと保育士や幼稚園の現役の方、それからリタイアされた保育士、幼稚園の先生、過去にプロで今も少しプロのにおいを出している方。それから、この宣伝を見聞きして、ひょっとしたら子育て支援で何かできるんじゃないかなと思っていらっしゃる皆様がたぶん今手をお上げにならなかった方々と思っています。

今、子育て、孫育てをしている方をとらえず親世代というふうに今から呼ばせていただきます。それで、ここ今日のパネルディスカッションの題になっておりますシニア世代ですが、私「シニアって何？」って担当の方にお聞きしたんですよ、主催者の方に。そしたら漁田先生もシニアですよっていわれ、あっ私シニアだったのかと、学生には38歳って言うてんですが…、21歳さば読んでいますけど、私もシニアだったんだな。で、「シニアってつまりどういうこと」って聞いたら、50代から上の方からシニアと一応ざっくり呼んでいますとのことでした。

今日は何をするかといいますと、お子さんをお孫さんを育てておられる方はちょっとでもいいから手を貸してほしいなって思っておられると思うんですね。それから、それ以外の方たちは、なんかお手伝いできることってないかなって思っておられると思うんですね。その間の橋渡しをしていきたいというのが私たちの今日の狙いでございます。これからちょっとお時間をいただきまして、この会が終わるくらいまでの間、あっそれだったらできる、あるいはそれだったら試してみたいからちょっと連絡してみようかなっていうことができれば、私たちの狙いは十分達成されたものと考えたいと思います。以上が今日のパネルディスカッションの狙いでございます。具体的に楽しい話をいっぱいしていきたいと思いますので、お付き合いよろしくお願いします。

それではですね、鈴木光司先生には基調講演でたっぷりお話ししましたので、他の三人の方々から具体的な子育て関連の活動のお話などを伺えたらいいかなと思っています。自己紹介とともにどうぞよろしく願います。それでは、まずは染谷さんからよろしくお願いします。

染谷： 私は島田市で、「しまだ次世代育成支援ネットワーク」という、市民ボラ